

# 大学生の発達障害特性と強み認識および抑うつとの関連

○菊地 創<sup>1)</sup>・番園寛也<sup>2)</sup>・高口僚太郎<sup>3)</sup>・石川千佳子<sup>2)</sup>・山科満<sup>2)</sup>

1) 松蔭大学 2) 中央大学 3) 長岡技術科学大学

## 問題・目的

■発達障害学生は障害特性に伴う困難から抑うつ等の二次障害を呈しやすい（小林, 2015）。

■発達障害学生への支援では、苦手な領域だけでなく、**自身の強みを含めた自己理解の深化**を支えることの重要性が指摘されている（木村, 2016）。

■しかし、発達障害者の強みを**実証的に扱った**研究は少ない（古長, 2020）

↓

➢そこで、本研究では自身の強みを認識することが発達障害学生の呈する抑うつに対しても有効なりソースとなり得るのか検討する。

## 方法

【調査時期】2022年1月～2023年5月

【調査参加者】一般大学生176名（男性107名，女子69名），平均年齢20.10歳（SD=1.74）

【使用尺度】

1. AQ10項目版（Kurita et al., 2005）
2. ASRS-v1.1パートA（Takeda et al., 2017）
3. 強み認識尺度（高橋・森本, 2015）
4. PHQ-9（Muramatsu et al., 2018）

【倫理的配慮】中央大学人文科学研究所倫理委員会の承認を得て実施



## 結果

Table1 抑うつを基準変数とした階層的重回帰分析

	Step1	Step2	Step3
	$\beta$	$\beta$	$\beta$
年齢	.02	.11 <sup>+</sup>	.11 <sup>+</sup>
性別	.10	.13 <sup>+</sup>	.12 <sup>+</sup>
ASD特性		.14 <sup>*</sup>	.12 <sup>+</sup>
ADHD特性		.38 <sup>**</sup>	.37 <sup>**</sup>
強み認識		-.30 <sup>**</sup>	-.31 <sup>**</sup>
ASD特性×強み認識			.17 <sup>**</sup>
ADHD特性×強み認識			-.17 <sup>**</sup>
$R^2$	.01	.35 <sup>**</sup>	.40 <sup>**</sup>
$\Delta R^2$		.34 <sup>**</sup>	.04 <sup>**</sup>

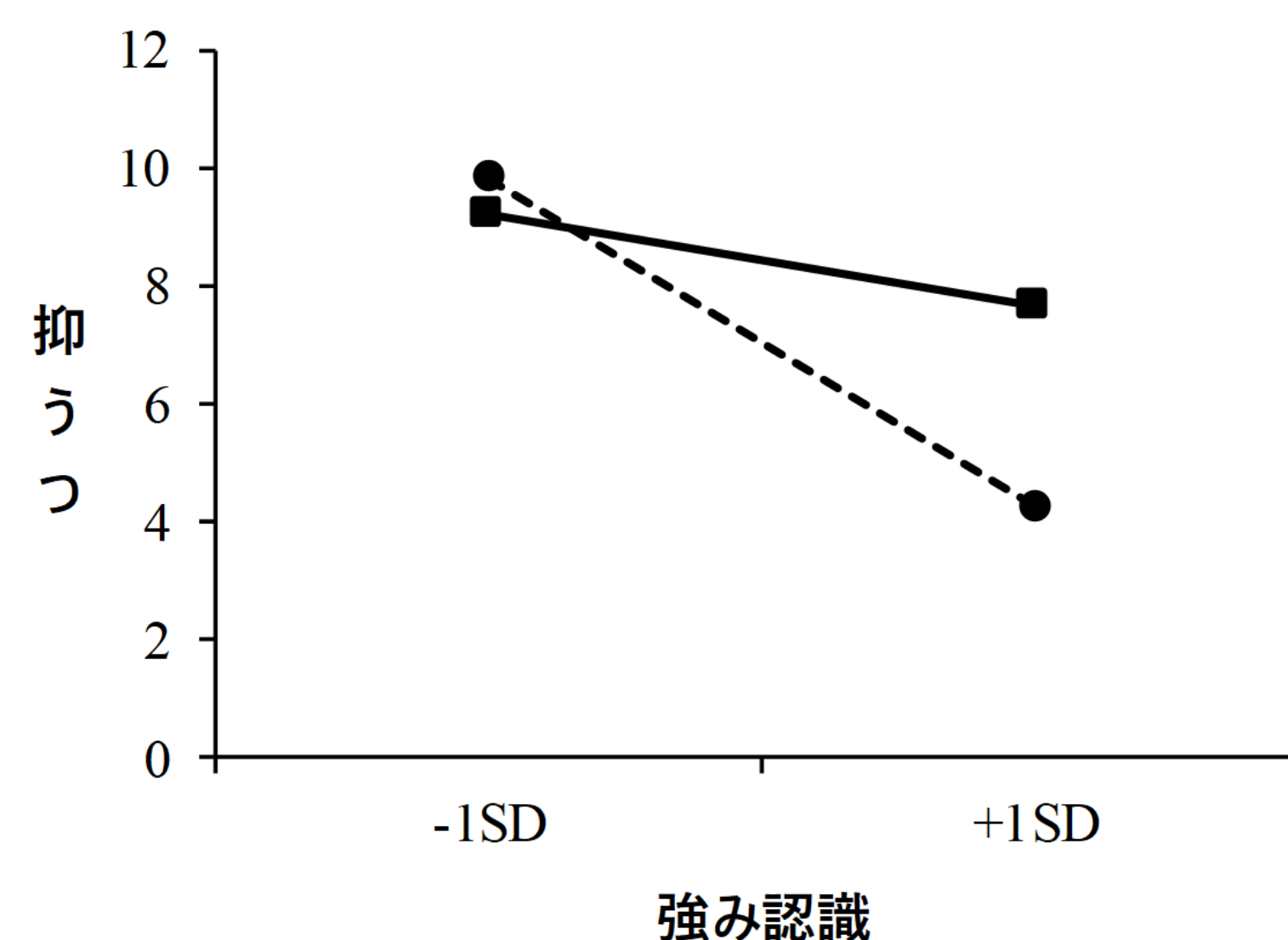


Figure1 ASD特性×強み認識の交互作用  
注) 実線がASD特性+1SD、破線がASD特性-1SDを示す

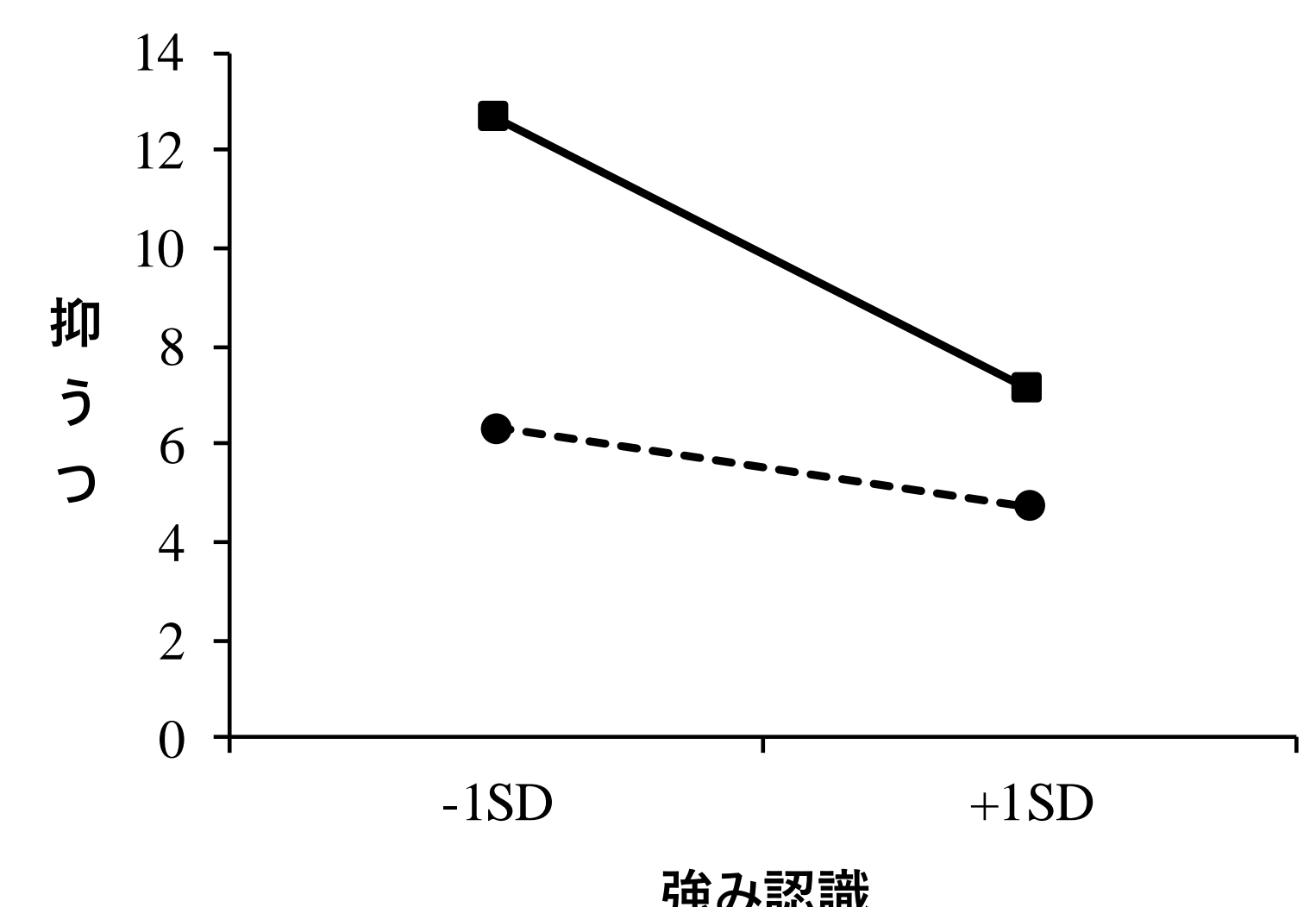


Figure2 ADHD特性×強み認識の交互作用  
注) 実線がADHD特性+1SD、破線がADHD特性-1SDを示す

## 分析結果

✓ Table1: **最終的な回帰式の決定係数が有意**であった。ステップ1からステップ2にかけて決定係数の有意な増加が認められ、ステップ2からステップ3にかけても有意な増加が認められた。

✓ Table2: **ASD特性の低い群では強み認識による効果が認められた**のに対して、**ASD特性の高い群では有意な効果が示されなかった**。

✓ Table3: ADHD特性の低い群では強み認識による効果は示されなかったのに対して、**ADHD特性の高い群で強み認識が有意な効果が示された**。

## 考察

1. ASD特性を有している学生において強みの認識は抑うつの低減に有意な効果を示さなかった。
  - ・ ASD者は対人関係における困難に直面することで、症状が出現する（桐山・石川, 2014）。
  - ・ ASD者に自覚されやすい強みは、他者との関わりに関連しにくい（古長, 2020）。

### 臨床的示唆

- **心理教育**：強みを含めた自己概念に対する**リフレーミング**と**コンプリメント**
  - **環境調整**：**強みの活用感**（自分が強みを日常の中で使うことが出来ているという主観的な感覚）を感じられるような環境の調整・構築がより重要
2. ADHD特性に対しては強みを認識することが抑うつを低減する
  3. 今後の研究では、実際の支援対象者レベルの抑うつ、発達障害特性を有する学生においても本研究の結果が実証されるのか検証していく。

謝辞：日本学術振興会科学研究費（代表者：山科満，課題名：未診断の発達障害を有する大学生に対する自己理解促進のための支援一体型調査研究（課題番号：21K03092））の助成を受け実施した。

連絡先：菊地創（松蔭大学 専任講師）

mail : s.kikuchi@shoin-u.ac.jp

researchmap⇒

